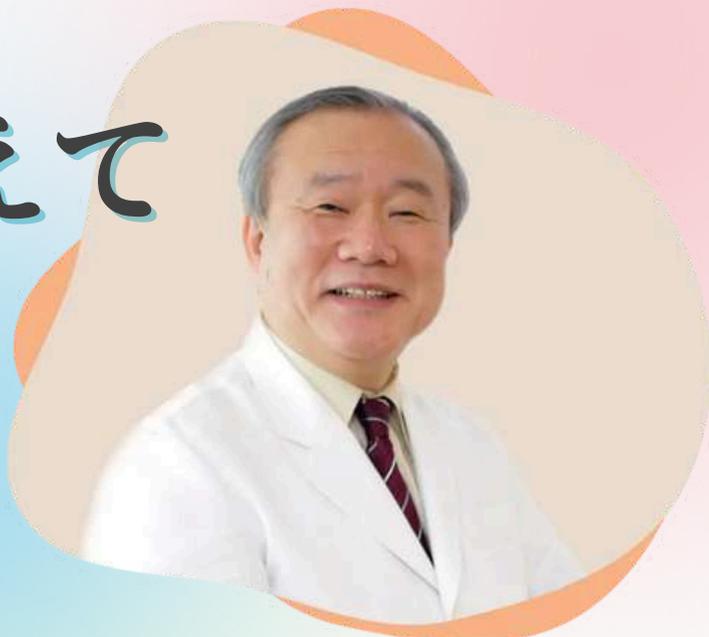


魂の記憶 生と死を超えて



photo 森澤正光

サヌカイト奏者 小松 玲子



池川クリニック 院長
池川 明



愛せる母・スピリチュアルクリニック 院長
白石 俊隆

2025 10月12日 日

時間 10:00-17:00 開場 9:30~

会場 國學院大學渋谷キャンパス
130周年記念5号館

参加費 会員：5,000円 一般：10,000円
学生：2,000円



株式会社xCura 代表取締役
新嶋 祐一郎



日本瞑想セラピー協会 代表
土元 洋一郎



催眠療法イヅノカミ 代表
大神 宏治

胎内記憶について 最新の調査より

池川 明（顧問 池川クリニック院長）

【概要】

胎内記憶研究の第一人者として、これまで数々の研究論文・書籍の執筆や、新聞・映画等のメディアへの出演されていらっしゃる池川明先生が、最新の胎内記憶調査について、お話をさせていただきます。「胎内記憶」という領域を知ることは、「自分たちが、いかに生きやすく生きる社会をつくるか」に繋がっていくということで、日々、活動を続けていらっしゃいます。



【プロフィール】

池川クリニック院長、一般社団法人日本胎内記憶教育協会 代表理事、日本スピリチュアル医学協会顧問、日本医療催眠学会顧問

「胎内記憶」領域の第一人者として、これまで数々の研究論文・書籍の執筆や、新聞・映画等のメディアへの出演。2014年から上映されている「かみさまのやくそく」では主演を務める。

1989年に横浜市に産婦人科 池川クリニックを開設、2016年までの28年間で約2700件の出産を扱う。現在では出産の扱いをやめ、胎内記憶を世界に広める活動に専念している。

『胎内記憶に起因すると考えられた多重人格の1症例 ～拙著「医療催眠療法」より～』

白石 俊隆（理事長 愛せる母・スピリチュアルクリニック 院長）

【概要】

本学術大会では、池川明 先生が「胎内記憶 最新の考え方」というご演題で発表される予定です。池川先生は「日本胎内記憶教育協会」で素晴らしい業績を上げておられます。

子供が生まれ出てからは、胎内・中間世・前世などの記憶が年齢とともに忘れ去られ、魂の決意が今世の肉体が受け取る体験によってかなり修飾されてしまうことも多くそれが魂の予定外の病気を作り出しているようにも感じます。そこで、私はそれを考慮した症例を選んでみました。



【本文】

症例は、多くの方に読んでいただきたいとの思いも込めて私の拙著「医療催眠療法」の中から「多重人格」が胎児期に形成されたと思われる19歳、女性（仮名 姫野紗弥）です。実は彼女は、5つの疾患「ADHD」「動物アレルギー」「パセドウ病」「解離性転換性障害」「多重人格」の全てを体験しておりました。ですからこの一連の病気の最後に実施した医療催眠療法をご提示することになります。「多重人格」は、現在、医学的には解離性同一性障害（Dissociative Identity Disorder; DID）と呼ばれています。どんな病気もそうなのですが、本当の原因はわからないのです。一応、発症の原因としては、幼少期の虐待や極度のストレス、心的外傷（トラウマ）が深く関わっていると考えられています。耐え難い苦痛から自分自身を守るための、極端な「解離」という心の防御反応であると理解されています。しかしながら、紗弥さんは、手足もまだ発生していないような小さな胎児の時からこの解離現象が起こっていました。本学術大会では、この症例のご本人とお母様に来ていただくことが決定いたしましたので、貴重な機会にどうぞご来場ください。

琮 SOUによる演奏

小松 玲子（アルテ・エ・ミュージカ株式会社 代表取締役）

【概要】

サヌカイトは讃岐で採取される超高密度の古銅輝石安山岩で、琮はそれを二重構造の筒状にくり抜いて釣り鐘状に並べた楽器です。余韻が長い独特の澄んだ音が特徴です。天上の音色を奏でるといわれるサヌカイト楽器「琮/SOU」で宇宙の神秘を表現します。ソルフェジオ周波数と宇宙の揺らぎ7.8Hzを使い、愛に満ちた深い感性を演奏で表現します。



photo 森澤正光

以前、CD収録時に脳力開発研究所相談役・工学博士の志賀一雅先生をお招きし、サウンドが脳に与える影響を最新脳波測定器「アルファテック7G」で検証していただきました。

演奏が始まると宇宙のゆらぎに近い7.8Hz前後のスローα波という癒しの脳波が優位となり緊張が和らぐことが分かりました。また、聴き手と演奏者の脳波を同時に測定したところ、演奏者の脳波に聴き手の脳波が同調する学術的にも興味深いデータが得られました。世界に数台しか存在しないサヌカイト楽器、琮(SOU)で、宇宙の揺らぎと共鳴する癒しをぜひ体感してください。多くの方にサヌカイトの魅力を知っていただければと思います。

【プロフィール】

香川県高松市出身。東京藝術大学卒業。よんでん文化振興財団奨学生。

サヌカイト「琮/SOU」演奏の第一人者。全国育樹祭で皇太子ご夫妻御前演奏。

サヌカイトユニット"LUZ AZUL"リーダー。朗読と奏ユニット二人組「かれん」主宰。

コマラジ アフナビ「サヌカイトでシエスタ」パーソナリティ。

東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師、東邦音楽大学附属第二高等学校非常勤講師を経て現在に至る。

高松市観光大使。平成28年度よんでん芸術文化奨励賞、東久邇之宮文化褒賞受賞。

VRディストラクションの歴史と今後について

新嶋 祐一郎（株式会社 xCura 代表取締役）

【概要】

近年、Virtual Reality(以下、VR)は医療分野において新たな介入手段として注目されている。VRによって気を逸らすことで痛みや不安の軽減を図る「VRディストラクション」など、非薬理的アプローチとして期待が高まっている。



本講演ではVRによる疼痛緩和の歴史を振り返りつつ、株式会社xCuraの製品である「セラピアVR」の臨床事例を紹介し、今後の可能性と課題について考察する。

【本文】

xCuraはVRによるペインコントロールをテーマに複数の大学と連携して研究を進めてきた。国際医療福祉大学血管外科におけるパイロットスタディでは、患者にVRを装着した状態で腹部大動脈瘤および静脈瘤の手術を実施した結果、鎮静剤の使用量が最大75%削減されたという結果であった。鎮静剤の減量は、術後せん妄の発生リスクを低下させ、入院期間の短縮にもつながることから、医療現場の生産性向上に寄与する可能性が示された。

一方で、過去に溺水経験のある患者が海の映像に恐怖を感じたり、VRゴーグルの装着自体が不安を煽るケースも報告された。さらに患者の痛みや不安を軽減することが、医療機関にとって必ずしも直接的なメリットとはならないという課題もある。

VRによるペインコントロールは、減薬効果をはじめとする革新的な可能性を秘めているものの、現時点では研究事例に限られており、医療現場のニーズを十分に捉えきれていないのが現状である。したがって、今後は研究例を積み重ねるとともに、VRが医療機関にもたらす具体的な利点を明確化していく必要がある。

「1人誘導催眠療法 Ver. 2.0」 ～進化する歩き瞑想～

土元 洋一郎（理事 一般社団法人 日本瞑想セラピー協会(JMTA)代表）

【概要】

昨年度の「歩き瞑想」の進化バージョンで、アルケミスト的な手法によって、ほぼ瞬時に元気を取り戻す技法です。対面で実施する誘導瞑想ヒーリングを30年以上にわたって実践・研鑽してきましたが、さらに自分自身をヒーリングする方法も独自に開発しました。今後、この手法が多くの人々に利用できるよう、個別指導やトレーニングを日本、台湾、アメリカなどで提供していく予定です。さらに、論文公開を通じてこの手法の普及を図り、多くの人々に役立てていきたいと考えています。



【本文】

昨年は歩きながら軽い瞑想を行い、自分を癒す方法について発表しました。今年はその方法をさらに進化させ、宇宙との共同作業で改良を加えました。これにより、体調や身体的な問題に対するヒーリングが多くの場合、ほぼ瞬時に改善することを確認しました。スピリチュアルな観点から言えば、これはアルケミスト的なアプローチによる改善だと感じています。具体的な適用範囲としては、狭心症や心肺の不調、低血圧、眼精疲労、ドライアイ、股関節の痛みなどの多くの実例があり、また仕事や売上向上、翻訳作業のスムーズな進行など、病気以外の問題にも応用しています。この手法は、薬を使わず、1人でも実現でき、幅広い分野で、短期間で効果を実感できる点が特徴です。今後さらに多くの分野で検証を進めていきたいと思っています。

なお、昨年度の「歩き瞑想」に関するアンケート結果も添付予定です。この手法は日本各地や台湾などで開催している瞑想会を通じて少しずつ広めており、学会発表に参加された方々でうまくできない場合は、遠慮なくご相談いただければと思います。人間は「生まれる前から多くの能力を持っている」と言われています。この「本来の能力」を活かし、身体的な病気や人生の課題を解決するための手法です。

古神道の禊祓行法を応用した催眠療法の試み

大神 宏治（催眠療法イズノカミ 代表）

【概要】

古神道（禊祓の根本道場「稜威會」にて）で伝えられている鎮魂行法である「神業（かむわざ）」によりある種の深い変性意識状態に導かれることが体験されている。神業の重要な構成要素である「振魂（ふるたま）」を取り上げ、その方法とそれを催眠誘導にもちいる試みを紹介する。神業により導かれるトランス状態での可能性を考察し、その実演を行う。これは稜威會の伝える神業そのものではなく大神の解釈による応用である。



【本文】

明治後半から昭和初期にかけて新興宗教が次々と現れ、同時にオカルト的要素持つ民間療法霊術が流行した。当時は催眠術も霊術の一部とされた。その時代に奈良朝以前の禊祓（みそぎはらい）を再興した神人川面凡兒（かわつらぼんじ）。現在の神社神道における禊作法は、戦前に川面が行っていたものを簡略化、変更されたものである。

川面の思想の一端として、全てのものが最小単位の霊（ひ）が集まった魂（たま）であり、魂が集まった荒身魂（あらみたま）とする。荒身魂は体をなしそれは物質に当たるが、物質のみならず精神も同様に霊、魂、体で構成されるという。有形無形とは五官を分域とした名称に過ぎないと主張した。

禊における鎮魂とは中心である直霊（なおひ）が全身八十万魂を統一鎮定する事にある。禊の行法には振魂、伊吹（いぶき）、雄健雄詰（おたけびおころび）、鎮魂（たましずめ）がある。ここでは振魂による変性意識への誘導を催眠療法的な解釈で行ってみる。

時間	プログラム	大会	10:00~17:00
〈第一部〉		司会	理事 花咲 ともみ
10:00-10:10	開会の言葉	理事長	白石 俊隆
10:15-11:35	〈顧問講演〉 「胎内記憶について 最新の調査より」	顧問	池川 明
11:35-11:45	=休憩=		
11:45-12:25	『胎内記憶に起因すると考えられた多重人格の1症例 ～拙著「医療催眠療法」より～』	理事長	白石 俊隆
12:40-13:40	=お昼休憩=		
13:32-14:40	〈会計報告〉	副理事長	藤野 敬介
〈第二部〉		司会	理事 中野 珠美
13:40-14:40	「琮SOU」による演奏	サヌカイト奏者	小松 玲子
14:40-14:55	=休憩=		
14:55-15:25	「VRディストラクションの歴史と今後について」		新嶋 祐一郎
15:30-16:00	「1人誘導催眠療法 VER. 2.0」 ～進化する歩き瞑想～	理事	土元 洋一郎
16:05-16:35	「古神道の禊祓行法を応用した催眠療法の試み」		大神 宏治
16:35-16:50	交流会		
16:50-16:55	閉会の言葉	副理事長	藤野 敬介

お申込み 締切り 10月6日(月)

学会ホームページより
<https://japan-mha.com>



参加費 ※アーカイブ視聴も同一料金

会員：5,000円 一般：10,000円 学生：2,000円

お問合せ 大会事務局：taikai.jmha@gmail.com



国学院大学
 渋谷キャンパス
 へのアクセス



- ◆渋谷駅から徒歩約13分
- ◆表参道駅（地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線）B1出口から徒歩約15分
- ◆恵比寿駅からのアクセス 恵比寿駅から徒歩約15分

一般社団法人 日本医療催眠学会

お問い合わせ

日本医療催眠学会 事務局



070-4388-7102



taikai.jmha@gmail.com